

大学は自分で面白くできる！

大学生活をデザインするはじめの一步

「おもしろいこと」を自分自身で創り出す授業

基礎協働演習

教養科目
「協働教育科目」
前期

なんのために大学に入った？大学でどんなことしたい？卒業したらどうなりたい？
サークルやバイトにのめり込むのもいいけれど・・・
流されるまま何となく大学生活が終わってしまうのはもったいない！

和歌山／和歌山大学には面白い人も資源もたくさん。
せっかく大学に入ったのだから
自分からやりたいことをやってみよう！

月5限

自主的に「学ぶ」を創造するために

自分の興味・関心を元に、自分が大学生として「やりたいこと」を「プロジェクト」として企画化し、仲間と共に実施します。チームでプロジェクトを実施し、検証・報告をするという一連のプロセスに必要な考え方を学ぶことで、“社会人”としても、また学問を探求する学生としても必要なスキルの基礎も学びます。

例えばこんなプチプロジェクトを企画してみたり・・・

- ・関西の有名建築を巡って調査する
- ・自分の学科を卒業した研究者をインタビュー
- ・フリーマーケットで商売体験
- ・商店街交流つなひき大会企画
- ・児童館のボランティアでイベント企画
- ・キャンパスに花を植える、ごみを拾う

大学（和歌山大学）というフィールドを使って、自分がいかに羽ばたいてゆくのかわ、活躍する諸先輩方の話や自らのチャレンジを踏まえ、考える機会にしてください。これが就職(活動)や卒論にもつながる第一歩になる授業です。

得られるもの

- ・「自ら主体的に行動し学ぶ」姿勢
- ・コミュニケーション力の向上
- ・プロジェクトマネジメントの基礎
- ・表現技術(プレゼン・文章作成)の基礎
- ・学部・サークルを越えたつながり



回	内容(予定)
1	授業の概要説明。大学とは何か、高校までとの違いを考える。
2	和歌山大学の取り組みを知り、この大学をいかに活用できるかを考える。
3	大学で活躍する先輩の例から、自ら主体的に行動し学ぶことを考える。
4	将来像、大学でやりたいことを考え、プロジェクトを 企画立案 する。
5	「 企画市 」:プロジェクトを実施するための仲間を集める。
6	実施計画を立てるグループワーク。計画立案の考え方。
7	実施(準備)をするためのグループワーク。効果的なグループワーク法。
8	中間報告
9	計画の見直し
10	実施のためのグループワーク
11	実施後の検証・報告をするためのグループワーク。効果的なプレゼン法。
12	実施報告プレゼンテーション 。
13	実施報告書をまとめる。効果的な文章の書き方。
14	体験を振り返って、自己・他者・プロジェクトについて考える。
15	発展科目や様々な機会を知り、今後の学生生活を考える。

【発展科目】

ソフトスキル論 (後期集中)

基礎協働演習での経験を踏まえて、チームワークに必要なスキルを学ぶ

地域協働演習 (後期)

地域・企業の本物の課題に対して企画立案

自主演習

インターンシップ



「協働教育科目」 を紹介します

前期

前期

基礎協働演習

「自ら主体的に行動し学ぶ」姿勢を身に付けることを目的としています。自分が大学生として「やりたいこと」を「プロジェクト」として企画化し、仲間と共に実施します。

前期 集中

熊野フィールド体験A

紀伊半島南部の熊野エリアに出向き、実際のフィールド体験学習を通じて、

- 1) 熊野の豊かな自然の素晴らしさ
- 2) 熊野の山村を支えてきた農林業と防災技術の重要性
- 3) 自然資源の利活用による内発発展の可能性について理解、認識する

後期

地域協働演習

地域・企業のリアルな課題解決・企画立案に取り組むことで、社会的な価値を生み出す“仕事”について体験的に考え、自己成長する講義です。

地域の行政・NPO・企業等と連携し、PBL(課題解決型学習)を行うことで、今後の学生生活とキャリアビジョンを描く材料を培います。

後期 集中

熊野フィールド体験B

紀伊半島南部の熊野エリアに出向き、実際のフィールド体験学習を通じて、

- 1) 熊野の山村の素晴らしさ
- 2) 山村での暮らしを支えてきた生活技術や風習、過疎化が進む現状
- 3) 山村資源の利活用による内発的発展の可能性について理解、認識する

前期 集中

農村の仕事と技術の魅力

現代社会が直面する食、健康、環境などの問題はその根源を辿れば、農林漁業の維持の問題と密接に関わります。本講義では、人間の基本的な生存や自然環境、地域社会維持などに不可欠な一次産業について、「仕事」の実体験を通じて、現状と課題を講義します。

講義では毎回実際の農業現場に出向きます。実作業を経験することで、農業の運営技術、共同作業と地域コミュニティの維持、自然環境の維持、社会との関連性、課題などを学び、現代社会の種々の問題を複合的に把握することを目的とします。地域づくりや食、環境、観光、農村社会、体験教育、地域政策などを考察するための前提となる基本的な知識と経験を得ることに興味がある人が対象になります。

後期 集中(前期から募集)

リーダーシップ・ チームワーク実習

社会人基礎力の育成が大学に求められています。この授業では、その中の「チームで働く力」に焦点をあてます。野外教育活動をとおり、チームで協力して課題に取り組み、リーダーシップやチームワークを体験的に学びます。体験(気づき)から学び(概念化・仮説化・一般化)へのプロセスを重視します。

後期 集中

ソフトスキル論

現代社会では単なる「専門家」ではなく、自身の「専門」に軸足を置きつつ他の「専門」家達とチームを組み、またプロジェクトに関係する「ステークホルダー」との調整を行いながら「仕事」が達成できる即戦力としての人材を大学卒業生に求めている。

講義ではチームの作られ方やプロジェクトメンバー間の人間関係のあり方、構築方法に関する分析と解説を行う。またプロジェクトマネージャーとメンバーの関係性を分析し、必要となるマネジメントスタイルに関する分析と解説を行う。教材としてこれまでのプロジェクト体験や「のだめカンタービレ」等のテキストを用いる。またプロジェクトとステークホルダーの位置づけ、プロジェクトの社会的な位置づけを考える上で必要となるoperational・tactical・strategicな視点に関して解説を行い、実例として企業研究にも必要不可欠となる業務分析や、教員も具体的に関わった近年の日本の宇宙政策論の立案と実践に関する分析と解説を行う。

後期

自主演習

自主演習とは、学生の自主性や創造性を喚起するために、学生の自発による知的、創造的、システム思考的な活動や努力に対して評価を与える授業科目です。

学生が自分の意志で、自ら行う活動や努力で、たとえば、ソーラーカーレースやロボットコンテストへの参加、ボランティア活動、野外調査、技術調査、工場実習などが対象です。また、教員が提案するテーマを自主的に実行することもできます。

詳しくは
「教養科目シラバス」
「協働教育センター
(クリエ)」WEBサイト
参照